第17回 愛媛形成外科研修会

抄 録 集

日　　時　平成18年6月24日（土）　16時～

場　　所　独立行政法人国立病院機構　四国がんセンター

3階　研修室

松山市南梅本町甲160　TEL：089-999-1111

当番世話人　愛媛県立中央病院　形成外科　小林　一夫

愛媛形成外科研修会

会　期	世　話　人	会　場	日　時	参加者
第1回	河村　進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成10年7月4日	15名
第2回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成10年12月5日	17名
第3回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成11年6月19日	20名
第4回	河村　進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成11年11月27日	19名
第5回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成12年6月24日	17名
第6回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成12年12月9日	20名
第7回	河村　進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年6月23日	23名
第8回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年12月8日	23名
第9回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成14年6月8日	27名
第10回	河村　進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成14年12月14日	27名
第11回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成15年6月28日	25名
第12回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成15年12月13日	25名
第13回	河村　進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年6月26日	26名
第14回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年12月4日	29名
第15回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成17年6月18日	31名
第16回	河村　進 (四国がんセンター　形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成17年12月10日	35名
第17回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成18年6月24日	

第17回　愛媛形成外科研修会

研修会

1．受付は当日15時30分より会場で行います。
　車でお越しの方は、誠にすみませんが一律 100 円（何時間停めても）の駐車料金がかかります。
2．参加費は1,000円を申し受けます。
3．演者で、まだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取り下さい。
4．討論時間は、一題あたり５分を予定しております。
5．発表形式は Windows Power Point によるＰＣプレゼンテーションでお願い致します。（当日はＵＳＢメモリーあるいはＰＣ本体をご持参下さい。）

研修会総会

17時45分から会場で行います。

連絡先
〒790-0024
松山市春日町83
愛媛県立中央病院　形成外科
小林　一夫
TEL 089-947-1111
FAX 089-943-4136
kobak@silver.plala.or.jp

研修会プログラム

SECTION Ⅰ　1～3　(16:00～16:25)

座長　森戸　浩明　先生

1.　脱毛レーザーのクーリングシステムを用いた パルス色素レーザー照射時の皮膚冷却の工夫

三豊総合病院　形成外科　○田中　伸吾、太田　茂男

（3分）

当院では、赤あざに対しパルス色素レーザー（米国サイノシュアー社製　フォトジェニカV型）を用いレーザー治療を行っているが、肥厚性瘢痕を形成した症例があった。そのため保冷剤を用いて照射するなどの工夫をしていた。今回、脱毛レーザーとして使用しているキャンデラ社製GentleLASE-LEのダイナミック・クーリング・デバイスシステムを色素レーザーのハンドピースに簡易的に取り付ける工夫をしたので報告する。

2. 表皮母斑症候群の１例

松山赤十字病院　形成外科　○庄野　佳孝
皮膚科　南　満芳
小児科　須賀久美子

（5分）

極めてまれと思われる表皮母斑症候群の１例を経験した。症例は１歳女児。左側頭部・耳介・頬部に表皮母斑を認め、左眼病変・過成長を認めた。2005年10月炭酸ガスレーザーでabrasionを行ったが再発。2006年２月、左顔面神経麻痺が出現し、愛媛大学耳鼻科で中耳の真珠腫様腫瘍を切除された。若干の文献的考察を加えて報告する。

3. 局所陰圧療法における気密保持の為の一工夫

十全総合病院　形成外科　○古泉　佳男

（3分）

局所陰圧療法では、チューブ挿入部位からの air leak がしばしばみられ、気密保持の為に義歯固定材などが用いられる。この部位からの air leak の原因は柔軟性に乏しい皮膚とチューブを密着固定させようとする為に発生する。そこで、チューブを皮膚から離してドレッシングフィルム同士が密着する部分を作成することにより、義歯固定剤などを用いずとも気密保持が可能になった。

SECTION Ⅱ　4～5（16：25～16：45）

座長　庄野　佳孝　先生

4.　左鎖骨皮膚瘻の１例

愛媛労災病院　形成外科　○木暮　倫久、黒住　望

（３分）

頭頸部の皮膚瘻としては耳前瘻孔や正中頚のう胞、側頚のう胞に付随する皮膚瘻がよく知られている。鎖骨皮膚瘻については頻度はまれとされており、2004年の大塚らの報告によると、今までに22例報告されている。今回、我々は左鎖骨部の皮膚瘻を経験したので、追加報告する。

5. 乳房 epidermal cyst の２症例

独立行政法人国立病院機構　四国がんセンター

形成外科　○河村　　進、前場　崇宏

外科　　平　　成人、前田　　愛、迫川　賢士

見前　隆洋、大谷　真二、高畠　大典

中川　和彦、青儀健二郎、大住　省三

高嶋　成光

病理　　西村理恵子

（５分）

乳房に発生する epidermal cyst は比較的まれである。今回われわれは術前検査で悪性を疑う所見を有する epidermal cyst の症例を２例（８５歳女性、右乳房直径 3.0cm 大。45 歳女性、左乳房直径 9.0ｃｍ大）経験した。うち一例はエキスパンダーとコヒーシブバッグによる再建を行なった。症例を供覧する。

SECTION Ⅲ　6～9　皮膚欠損、感染、インプラント
(16：45～17：25)

座長　河村　進　先生

6. Cross leg flapにて再建した左足degloving injuryの一例

県立南宇和病院　皮膚科　○森戸　浩明
整形外科　　渡邊　誠治

(5分)

63歳、男性。4メートルの高さよりパワーショベルごと転落、左足を挟まれdegloving injuryを受傷、搬送された。踵骨骨折、足根骨骨折の整復固定と創閉鎖を行ったが、感染を来し広範な潰瘍となった。感染コントロールのための植皮を行った後、踵部は遠位茎腓腹皮弁をCross leg法にて再建した。僻地医療に携わり、一人医長という条件下で有効な手段と思われた。

7. 逆行性浅腓腹動脈皮弁による足関節周囲軟部組織の再建の３例

愛媛県立中央病院　形成外科　○樫山　和也、小林　一夫、平田礼二郎
徳永　和代、尾崎　絵美

（5分）

足関節周囲は、脊髄損傷患者の褥瘡を生じやすい部位のひとつであり、当然MRSA感染を伴うことが多い。今回、３名の脊損患者の足関節周囲軟部組織再建を逆行性浅腓腹動脈皮弁にて行い、経過観察する機会を得た。本皮弁は挙上が比較的容易で、移動範囲の自由度が高く、血行も安定しているため、感染を伴った足関節周囲軟部組織欠損再建に有用である。

8. インプラントによる乳房再建後に感染を生じ、DIEP flapにて再再建した一例

静岡がんセンター　形成外科　○中川　雅裕、福島　千尋
浅野　隆之、飯田　拓也

（５分）

症例は、３０歳の女性。右乳癌にて２００３年１０月に胸筋温存乳房切除術+エキスパンダー挿入術を施行した。２００４年６月に局所麻酔下乳房インプラント挿入による乳房再建を行った。２００４年１０月にインプラントの感染を生じ、洗浄と抗生剤投与にて軽快した。しかし、２００５年２月に再度インプラントの感染を生じたため、２００５年３月インプラントを除去し、DIEP flapによる乳房再建を行った。

9. 頭部MRSA感染症例の再建について

宮本形成外科　○松本由美子、宮本　義洋
宮本　博子、岩垂　鈴香
徳山英二郎

(5分)

58歳男性。54歳時、脳AVMを発症し摘出術、ゴアテックスでの硬膜再建を行い、皮膚瘻の出現、再発を繰り返していた。ティッシューエキスパンダー挿入術を施行されたが、MRSA感染を認め難治となった。58歳時、当院紹介受診し、切開排膿、エキスパンダー除去を行った。その後、ゴアテックス除去と大腿筋膜張筋皮弁、植皮による被覆を行った。今後の治療、問題点、頭蓋骨再建などにつき、御享受頂きたく、症例を供覧する。

SECTION Ⅳ　10～11　皮膚欠損、再発性
(17：25～17：45)

座長　黒住　望　先生

10. 皮弁採取部難治性潰瘍の１例

愛媛大学医学部附属病院　形成外科診療班　○永松　将吾、大塚　　壽
中岡　啓喜、青木　恵美
戸澤　麻美、光野　乃祐

（５分）

31 歳，男性，基礎疾患特になし。某大学病院整形外科にて 2003 年 7 月，左下腿からの free peroneal flap を行われた。術後創部の治癒不良にて当院に紹介あり，ほぼ３年間にわたり保存的・手術的治療を繰り返し行っているが，いまだに創治癒せず，原因は不明である。ご意見を頂きたく供覧する。

11. 脊髄電気刺激療法後に難治性瘻孔を生じた１例

愛媛大学医学部附属病院　形成外科診療班　○青木　恵美、大塚　　壽
中岡　啓喜、永松　将吾
戸澤　麻美、光野　乃祐

（３分）

35 歳女性。慢性疼痛に対して脊髄電気刺激療法を施行されていたが、左胸部電極摘出後の創治癒遷延・瘻孔形成のため当科を紹介された。第１回手術時に皮下脂肪織までの瘻孔を認め摘出したが再発。第２回手術時に筋膜上まで瘻孔を認め、正常組織を含めて摘出したが再発。第３回手術時に瘻孔は筋肉内・血管周囲まで浸潤しており、これらを含め摘出。現在経過観察中である。

愛媛形成外科研修会総会　（17：45～18：00）

１，　今後の研修会を開催する場所について

２，　講演会の提案

３，　次回、愛媛形成外科研修会の日程

４，　中国四国形成外科学術集会のアナウンス（会長：大塚先生）

　　中国四国褥瘡学会のアナウンス（会長：河村先生）

５，　その他